

教育目標		自ら考え、行動し、未来を創造できる生徒の育成 ～感謝する心、確かな学力、健やかな心身を育てる～					
重点目標		①確かな学力の育成 ②豊かな心・健康な体の育成 ③開かれた信頼される学校づくり					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
基礎・基本の徹底と授業改善	・指導方法の工夫改善を図る。 ・補習や補充学習を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 「未来を切り拓く力の育成」～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～」を研究テーマとし、ICT機器を活用した学習指導の工夫を取り入れる。 目標を持って学習できるように、毎時必ず「本時の目標」を掲示する。 全学年（全教科）共通の「振り返りシート」を活用し、生徒の学びに対する自己調整能力を高める指導を図る。 各教科において、「話し合い活動」や「教え合い活動」の時間を積極的に設けて、対話的で深い学びに繋げる。 全校生徒による「数学教え合い学習」を実施し、学習に対する主体性を高める。 全教科において「シラバス」を配布し、見通しをもった学習指導を行う。 「授業参観Weeks」で、全職員が互見授業を行い、「生徒の学びの姿」を授業改善に繋げる。 校内研修会及び、研究授業を積極的に行う。 終礼学習ではタブレット課題の「ミラシード」に取り組み、繰り返し学習することで基礎学力の定着を図る。 週2回のコミュニケーション・トレーニングを実施し、主に「話す力」「聞く力」「書く力」を高める。 テスト前や長期休業中に、学習相談日を設定し、個に応じた指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにおいて、「授業は分かりやすく楽しい」という項目では、生徒の肯定的な評価の割合は87.9%、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」の項目で、肯定的評価が80%以上を目指す。 生徒アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」の項目で、肯定的評価が90%以上を目指す。 ROSEタイム(生徒同士の数学教え合い学習)アンケートにおいて、「グループ学習は楽しい」の項目で、肯定的評価が80%以上を目指す。 生徒アンケートにおいて、「コミトレ」を通して書く・聞く・話す力がより身についたと思う」の項目で、肯定的評価が80%以上を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「授業が分かりやすく楽しい」という項目では、生徒の肯定的な評価の割合は87.9%、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」の項目では、生徒の肯定的な評価の割合は93.5%となり、目標数値を上回る結果となった。様々な学年や教科の授業を職員が参観し合う「授業参観Weeks」や、「校内研究授業」を定期的に行い、授業改善に繋げることができた成果だと考えられる。また、全校生徒で取り組むROSEタイム(生徒同士の数学教え合い学習)をベースに、各教科で教え合い活動を積極的に取り入れることで、生徒主体の学習環境をつくることにつながった。 2週目のコミュニケーション・トレーニングでは、「書く・聞く・話す力がより身についたと思う」の項目で、生徒の肯定的な評価の割合は81.3%となり、目標数値を上回る結果となった。 補習や補充学習の充実に関しては、終礼学習の時間を毎日確保し、タブレットを活用したミラシードに取り組むことで、繰り返し学習する習慣を身に付け基礎学力の定着を図った。また、テスト前や長期休業中には、全学年で学習相談日を設定し、個に応じた指導を行った。2年生においては、昼休みの時間を利用して「質問教室」を開放し、学習に関する質問を受け付ける場を設けた。3年生においては、「受験必勝プリント」を超過して5教科のプリント課題を各フロアに配置したり、放課後は毎日学習室を開放したりするなど主体的に学習する機会を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会及び、研究授業を積極的に行い、さらなる授業改善に努める。 全職員が研究主題に沿った授業を行うことができるように、具体的な取り組みを考え、共有する。 授業の初めの「めあて」の明示と、授業の終わりの「振り返り活動」を徹底し、自己の学びを見つめなおすことを大切に授業を行う。 ICT機器をより効果的に活用する。 基礎学力が定着するように課題提示の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の学習環境をつくるために、ROSEタイムを取り入れた、「教え合い学習」を取り入れたと思われるが、全教師が、主旨を理解して定並み揃えて取り組めていかなければならない。 授業に「場所割」をつくるための意識をもって授業改善ができるようになるまで進めたい。 コミュニケーション・トレーニングの取り組みはすばらしいので、学習力に反映できればよいと思う。 「めあての明示」、「振り返り活動」を徹底して、1時間ごとに向きあっている時間なのかを明確にしていこうと考えている。
		<ul style="list-style-type: none"> My学習の充実を図るため、学習委員会を通して学年に応じた目標を設定する。 学期ごとに各教科の学習内容と家庭学習の方法をプリントにして配布する(シラバス)。 長期休業などの課題は、計画を立てられるようめやすを示す。 生徒、保護者ともに宿題が分かるように連絡帳の記入を徹底させる(朝読書や終礼学習などの時間を確保して宿題チェックの時間にする)。 振り返りシートと宿題を授業の最後で少し行ったタブレットで配布するなどの工夫を行う。 週末課題の提出日が月曜日に備わっているため、教科で提出日をずらす。 教科とまとめレポートなどは、個々の能力に応じた課題などの工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の家庭学習の時間が1時間以上で生徒を65%以上とする。 課題を提出している生徒を80%以上とする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業時間以外の勉強時間1時間以上の生徒が60.1%と、前年(57.4%)より2.7%増加した。家庭学習の習慣が身につけている生徒が前年より増加しているのは良い傾向である。学年別で見ると、1年生が57.6% (前年56.4%)で増減、2年生が40.4% (前年42.4%)で減少、3年生が30.2% (前年37.2%)で7%増加している。2年生の学習習慣が定着している。 「全くしない」と回答した生徒が12.1%と、前年(10.0%)よりも2.1%増加している。一昨年度(8.2%)と比べると3.9%増加している。1時間以上、2時間以上「全くしていない」生徒の差が開いていることがわかる。「全くしていない」生徒と取り組ませるかが課題である。 テスト前課題や長期休みの課題などを一日で一気に行ってしまう生徒もいるので、計画を立てて毎日少しずつ取り組む力を付けさせることも課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の学習習慣への対策としては、1年生の頃から道徳学習を行い、2年生で中だるみしないよう、道徳への目標意識を持たせる。 スクリーンタイムやマイラシードなどを活用する。 文章表記などの課題は取り組みにくい傾向にあるが、ホームページなど課題の取り組みが難しいので、ホームページから文章の課題に移れるよう、課題の出し方を工夫する。 よくできたときは褒めてやる気を伸ばす。 学習する環境づくり(机の整理など)も意識させる。 何をしたらいいかわからない生徒も多いので、マイ学習ノートの良い例などを示し、取り組みやすい環境を整える。 一気課題を出すだけでなく、日々少しずつ取り組める課題を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の基盤は、家庭にある。家庭の協力なしでは、効果的に取り組めないで、啓発活動が必要と思われる。 学習ノートを家庭学習の時間にカウントできるように、小学校との連携で、目的を持って取り組む習慣になるよう、連携した取り組みが必要と思われる。 ホームページ学習で、長期休みに欠かれない課題を少しも提出できるように対応してもらっているが、個々の責任において自主的にやらせていない、子供にとっても先生方にとっても、時間が無駄になるのではないかと。
学力の向上	・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 水・月・金の朝と昼休みに開館する。 年度末に貸出冊数の多かった生徒を表彰する。 年度当初、国語科の授業を全クラスに図書館の利用指導を行う。 読書の記録「ARA図書館通帳」で読書の習慣化を目指す。 朝読書は、図書室で借りた本を読む。 新聞の開業・年報図書を読む。 校外学習や職業調べ、修学旅行用の資料をさらに充実させ、総合的な学習の時間等でも図書館を利用する。 「図書館だより」に「先生のイチオシ」など生徒が身近に感じられるコーナーを設ける。 「図書館だより」に「学校だより」「ホームページ」で学校の読書情報の取り組みを紹介し、家庭での読書習慣につなげる。 NIEワークシートを開発、配布。 先生、教師のアンケートによる蔵書選定。 学習委員会の図書通番(貸出手続き)の実施。 特別支援級生徒の「自立活動」として、読書本の読解や「ARA図書館通帳」などの作成。 学習委員、司書、司書補助、ボランティアによる「図書館まつり」を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間貸出12,000冊 アンケート「学校は読書に力を入れている」70%以上を目指す 保護者アンケート「読書に親しみ機会を設けている」70%以上を目指す 	A	<ul style="list-style-type: none"> 12月年間貸出数17,268冊となり、昨年度より419冊ではあるが目標は達成した。「トラヤル」(修学旅行)など行事の調べ学習もタブレットの使用で読書の貸出は減っている。 月水金の開館には、朝は10人程度、昼は20人程度読書の来館がある。開館の来館はほとんどなく、本を借りたい生徒だけ来館がほとんど。 生徒アンケートより「朝の読書や図書室利用など読書に力を入れている」と回答した生徒58.7%で、昨年比-5.4%。国語科授業での利用もあり貸出は増えたが、朝読書が「テスト前朝読書」や「コミトレ」の日もあり、朝読書だけの時間ではなくなっていることも影響すると思われる。教員「朝読書の時の来館」を調査しているのは80.1%である。14年度は66.7%、15年度は82.0%で朝読書の朝読書への意識も低くはない。 保護者アンケートより「学校は積極的に読書に親しみ機会を設けている」と回答した保護者は47.4%で、昨年比-0.97%。また「学校の図書室で本を読んでいる」と回答した保護者は39.2%で、昨年比1.6%。一方で「子どもは家で読書をしていて、学校の図書室にはほとんど来ない」という意見も多かった。 読書の時間が少ない「本が嫌い」「本は借りて読んでいない」「タブレットが導入されてから動画視聴が増えた」等という意見も見られた。 1年生の保護者より「図書館に行く時間が少ない。保護者ボランティアを募るなどして放課後読書をしてほしい」という意見もあった。 特別支援級生徒の「自立活動」として、読書や読書の指導、読書貯金の指導、1年生から定着しつつある。NIEワークシートや読書検定、英語検定の過去問対策の読書の関係は継続して行っている。 学習委員会による「図書館まつり」はメイルさんに協力して実施できた。 司書による毎月の「図書館だより」は継続している。 特別支援級生徒の「自立活動」として、読書や読書の作成、読書本の整理等の作業が生徒の就労へのイメージづくり、就労への姿勢を考える機会になった。 メイルさんの読み聞かせは学年に合った内容で、生徒の反応もよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 場所が遠い、時間がないなど図書室に行くことが面倒な生徒もいるので移動図書室(コンテナ等)で教室まで運ぶ(導入)を導入して気軽に本を手にとることができる環境づくりをすすめてほしい。 朝読書の時間に宿題をしていたり、話をしていたりやクラスで読書をするなど、朝読書や読書の準備中の読書が徹底できると良いのではないかと。 図書室まつりを司書ボランティア、生徒会で盛り上げる工夫を。各学期に1回以上図書室の活用を促す。 もっと授業等で積極的に図書室の利用をすすめてほしい。 貸出冊数が増えているが、実際に読んでいるか不安である。 学習委員会による「図書館まつり」の実施を行う。 授業で、落ちている読書をする時間を確保できないようにしてほしい。 読書週間等のイベントを学習委員会主体で行う。 お星の放送を利用して、学習委員会より図書室のお知らせ、新刊本の紹介などを行う。 蔵書選定は1学期終業式の午後などに巡回図書を行う。 定期的に学校だより、学年だより、HPに取組みをお知らせして保護者に学校での取組みを知ってほしい。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 「図書館だより」に「先生のイチオシ」など生徒が身近に感じられるコーナーを設ける。 「図書館だより」に「学校だより」「ホームページ」で学校の読書情報の取り組みを紹介し、家庭での読書習慣につなげる。 NIEワークシートを開発、配布。 先生、教師のアンケートによる蔵書選定。 学習委員会の図書通番(貸出手続き)の実施。 特別支援級生徒の「自立活動」として、読書本の読解や「ARA図書館通帳」などの作成。 学習委員、司書、司書補助、ボランティアによる「図書館まつり」を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒の割合は84.6%で、昨年の80.3%より4.3%ポイント上昇した。 「先生は生徒の悩みや不安に親身に相談してくれる」と回答した生徒の割合は85.5%で、昨年(85.8%)と同様に高いポイントで維持している。 別室が昨年引き続き機能し、教室に行けない生徒の居場所となり、教室復帰に繋がった事例が見られた。 関係機関やSSWと連携し、ミーティングを開いて支援方法を共有した結果、別室で過ごせるようになった事例も見られた。 保護教諭や人権課題加配教員をはじめ、さまざまな職員が別室生徒や特別支援級生徒と関わることができた。 特別支援コーディネーターとも連携し、連絡指導など、個々の生徒の状況に応じてサポートできた。 民生委員のお力添えをいただいて、荒牧センターを「まっこと広場」として活用し、不登校生の居場所にする工夫ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 別室の居場所としての機能を充実させ次のステップにつなげてほしい。 関係機関やSSWと連携を深め、職員間での情報共有を進めたい。 引き続き多くの教職員で生徒に関わり、サポートに協力してほしい。 特別支援教育の面から個別のサポートをさらに充実させてほしい。 地域の人材活用をさらに進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒が依然多量1現状がある。発生率も高いと聞いている。 いじめを原因とする不登校の増加が世間では話題となっている。単純にいじめ問題と片付けられず、生徒指導担当、不登校担当との連携を視野に入れた指導を徹底していただきたい。 小学校時代からのいじめなどは、入学後に適切に対応できるだけの情報を学校と共有し個別に対応するなど、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるようになってほしい。 「まっこと広場」に職員が来室できないが、家から出られない生徒や子どもで生活改善する目的で開始したのだから、今年度、改善できるようにした生徒には、継続的に支援できる策を考えて、続けてほしい。 	
豊かな心・健やかな体	不登校への対応	<ul style="list-style-type: none"> 週1回不登校係会で現在の状況や取り組みの情報交換を行い、個々の生徒や保護者への対応を検討・検証。 学年会と連携をはかる。 養護教諭と連携し、情報共有をはかる。 別室や地域の各々の連携をより、教室や学校に行けずにいる生徒の居場所づくりに努める。 教室復帰に向けて、別室と学年との情報共有を密にする。 一人ひとりの生徒や家庭がなかなかの形でどこか(誰か)となつがれようとする。 一人ひとりの生徒や家庭がなかなかの形でどこか(誰か)となつがれようとする。 一人ひとりの生徒や家庭がなかなかの形でどこか(誰か)となつがれようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにおいて「学校に行くのが楽しい」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 「先生は生徒の悩みや不安に親身に相談してくれる。」を85%以上とする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒の割合は84.6%で、昨年の80.3%より4.3%ポイント上昇した。 「先生は生徒の悩みや不安に親身に相談してくれる」と回答した生徒の割合は85.5%で、昨年(85.8%)と同様に高いポイントで維持している。 別室が昨年引き続き機能し、教室に行けない生徒の居場所となり、教室復帰に繋がった事例が見られた。 関係機関やSSWと連携し、ミーティングを開いて支援方法を共有した結果、別室で過ごせるようになった事例も見られた。 保護教諭や人権課題加配教員をはじめ、さまざまな職員が別室生徒や特別支援級生徒と関わることができた。 特別支援コーディネーターとも連携し、連絡指導など、個々の生徒の状況に応じてサポートできた。 民生委員のお力添えをいただいて、荒牧センターを「まっこと広場」として活用し、不登校生の居場所にする工夫ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員室での状況を見と、学年や学年相違の連携は出来ていないと聞いている。適切な生徒指導を行うために、職員間のコミュニケーションをとり、今後とも積極的な連携を取り組んでほしい。 最近の事例は、学校だけの対応が難しいと聞いている。生徒指導を共有するために、引き続き、sswやpsw、養護センターや総合教育センターなどの、関係機関との連携強化をお願いしたい。 学校に対する苦情については、各関係機関と連携しながら、保護者に真摯に向き合って対応していただきたい。 先生方は、きめ細やかでいていいにかかわってくださっている。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導係を定期的に開催し、情報交換を密に行うとともに、係会の確認事項を学校・学年での共通理解事項とする。 職員間で連携を図り、全職員が同一歩調で生徒指導を行う。 報告・連絡・相談体制を整え、生徒指導事項の情報共有を図る。 関係機関やSSW、SCと連携して生徒指導に取り組む。 問題行動を起こったときだけでなく、普段からきめ細かく対応し、生徒理解に努める。 生徒会と連携し、校則について見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、生徒アンケートにおいて「学校は適切に生徒指導をしている」と回答する割合を保護者、生徒とも90%以上とする。 教職員アンケートにおいて「組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合を90%以上とする。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は適切に生徒指導をしている」と回答している割合は、生徒92.5%と目標を達成することができたが、保護者83.0%、生徒を達成することができなかった。 教職員アンケートにおいて「組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合が81.3%と目標には届かず、昨年の91.9%から10.6%下がった。 関係機関やSSW、SCと連携して生徒指導に取り組むことは、校則の見直しも行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導事項を共有をより一層密にするとともに、家庭訪問や教育相談を通じて、普段から丁寧かつきめ細かく対応に努める。 特別支援教育の面からのサポートをさらに強化してほしい。 指導後も適音かけをするなど、ケアに努める。 生徒指導係で情報共有したことを学年や学年相違で共有し、報告・連絡・相談体制を強化する。 関係機関やSSW、SCとの連携を今後も継続して進めていく。 生徒会とも協力し、校則やルールの改善を進めていく。 	
いじめへの対応	いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを実施し早期発見に努めるとともに、連絡帳の活用など、普段の生活より人間的な生徒観察を行い、心にかけて指導を心がける。 生徒や保護者の訴えやアンケートをもとに教育相談を行い、早期対応に取り組む。 いじめ事案については、担任一人で抱え込まないよう、報告・連絡・相談体制を整え、学年や学校で連携し、継続した指導や見守りを行う。 アンケート等を活用し、いじめの未然防止に努めるとともに、いじめの対策を講ずる。 生徒指導講演会を実施するなど、SNSのいじめへの啓発活動を行う。 SNSの使い方について周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートにおいて、「いじめられていると感じる」生徒を0%にする。 「学校へ行くのが楽しい」と回答している生徒を80%以上とする。 「先生は相談に乗ってくれている」と感じる生徒を85%以上とする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを実施し、教育相談を行っているの実態把握と未然防止に努めた。 いじめアンケートの結果「いじめられていると感じる」生徒が0%にはならなかった。 「学校へ行くのが楽しい」と回答している生徒が84.6%と昨年度より上昇し、目標を達成することができた。 「先生は相談に乗ってくれている」と感じる生徒が85.5%と、昨年より0.3%減少したが、目標を達成した。 関係機関やSSW、SCと連携していじめへの対応に取り組めた。 SNSに関する講演会を行い、情報モラルの向上に努めた。 生徒の記述欄に「いじめがある」「人をいやくや雰囲気がある」というコメントが見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを定期的に実施し、その結果を学年間で共有し、組織的かつ迅速な対応を図りたい。 教育相談後も生徒観察や見守り活動を行い、生徒のケアに努める。 生徒指導係で情報共有したことを学年や学年相違で共有し、報告・連絡・相談体制を強化する。 関係機関やSSW、SCとの連携を今後も継続して進めていく。 生徒会とも協力し、校則やルールの改善を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級のクラスLINEグループや、写真のアップなど携帯電話の使い方が元となる生徒指導係が後を絶たないという声も聞いている。情報モラルの観点で、生徒だけでなく、保護者の危機意識を高める必要がある。 アンケートを定期的に実施し、活用することにより早期発見に繋がってほしい。 各学期に職員が相談して、全員と担任が話ができる機会があるといい。クラスの生徒という捉え方だけでなく、学年や学校で情報共有が必要となることは、しっかりと認識してほしい。 多くの生徒や保護者の見守りや、ことばがけ、情報共有を推進するよう環境が必要と思われる。 いじめの発生を教師側の気付きを見逃さないよう、生徒観察をしっかりと行っていた。また、先生方には「いじめ」に関する研修」等で研鑽していただきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを実施し早期発見に努めるとともに、連絡帳の活用など、普段の生活より人間的な生徒観察を行い、心にかけて指導を心がける。 生徒や保護者の訴えやアンケートをもとに教育相談を行い、早期対応に取り組む。 いじめ事案については、担任一人で抱え込まないよう、報告・連絡・相談体制を整え、学年や学校で連携し、継続した指導や見守りを行う。 アンケート等を活用し、いじめの未然防止に努めるとともに、いじめの対策を講ずる。 生徒指導講演会を実施するなど、SNSのいじめへの啓発活動を行う。 SNSの使い方について周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分を大切にすることや、他の人の思いやりについて教えること」の割合を各学年85%以上とする。(R4 85%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修や若手研修として道徳の研修を昨年度よりは多く行うことができた。 担任よりローテーションで道徳を行い、研究を深めることができた。 大規模な研修から、全校で同じ教材を扱う道徳を行い、多数の来校者に見学してもらったことができた。 道徳の授業を保護者に見てもらった機会がなかった。 特別な機会を除き、学年会などで指導者の検討をするとはできなかった。 全校の活動として、道徳の授業以外の道徳的教育を、目標に掲げながら行うことはできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏の研修会で時間を作ってもらい、じっくり道徳の研究に取り組める機会を設ける。(毎年お願いしていることである)。 全校で同じ教材を扱う機会を有意義であったこと、可能な限り今後も継続したい。 保護者に参観してもらい、家庭と学校、地域が連携して道徳教育に取り組む地盤を作る。 道徳の指導者検討の機会を複数回、意識的に設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「道徳の教科化」が導入され、各学年計画的に指導を行っているという声も聞いている。引き続き、教師側の授業力向上や道徳教育の向上させるとともに、校内研修等を入念に行なった状態に指導にあたっていただきたい。 道徳には、学校の担うところと家庭の担うべきところがある。この部分を明確にした指導を行うべきである。 道徳を教科として扱うことで、道徳の評価が通知票に記載されるが、担任の負担だけにならないよう、研修を充実させる必要があると思われる。 子どもの考え方を尊重し合える学びの環境作りが必要なのではないかと。
道徳教育の充実	「心の教育」を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業において生徒一人ひとりの考えや思いを見取れるような、中心発問・授業展開を行う。 実践と研修を兼ねた道徳の授業を受け、多様な角度からアプローチを受け、より豊かな心を育む機会をもつ。 三者懇話など保護者と対面するときに、話題として道徳「アト」などを提示し、学習状況の共有を行う。 道徳の授業を中心にすべての教育活動を通じて、命の大切さ、相手思いやる心を育む。 一月分の指導案を学年会で提案するなどし、指導案の質の向上や教職員の内容理解を促す。 教科書の教材を効果的に活用して道徳授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分を大切にすることや、他の人の思いやりについて教えること」の割合を各学年85%以上とする。(R4 85%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修や若手研修として道徳の研修を昨年度よりは多く行うことができた。 担任よりローテーションで道徳を行い、研究を深めることができた。 大規模な研修から、全校で同じ教材を扱う道徳を行い、多数の来校者に見学してもらったことができた。 道徳の授業を保護者に見てもらった機会がなかった。 特別な機会を除き、学年会などで指導者の検討をするとはできなかった。 全校の活動として、道徳の授業以外の道徳的教育を、目標に掲げながら行うことはできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏の研修会で時間を作ってもらい、じっくり道徳の研究に取り組める機会を設ける。(毎年お願いしていることである)。 全校で同じ教材を扱う機会を有意義であったこと、可能な限り今後も継続したい。 保護者に参観してもらい、家庭と学校、地域が連携して道徳教育に取り組む地盤を作る。 道徳の指導者検討の機会を複数回、意識的に設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「道徳の教科化」が導入され、各学年計画的に指導を行っているという声も聞いている。引き続き、教師側の授業力向上や道徳教育の向上させるとともに、校内研修等を入念に行なった状態に指導にあたっていただきたい。 道徳には、学校の担うところと家庭の担うべきところがある。この部分を明確にした指導を行うべきである。 道徳を教科として扱うことで、道徳の評価が通知票に記載されるが、担任の負担だけにならないよう、研修を充実させる必要があると思われる。 子どもの考え方を尊重し合える学びの環境作りが必要なのではないかと。
		<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業において生徒一人ひとりの考えや思いを見取れるような、中心発問・授業展開を行う。 実践と研修を兼ねた道徳の授業を受け、多様な角度からアプローチを受け、より豊かな心を育む機会をもつ。 三者懇話など保護者と対面するときに、話題として道徳「アト」などを提示し、学習状況の共有を行う。 道徳の授業を中心にすべての教育活動を通じて、命の大切さ、相手思いやる心を育む。 一月分の指導案を学年会で提案するなどし、指導案の質の向上や教職員の内容理解を促す。 教科書の教材を効果的に活用して道徳授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストバッチの受賞者は3年生37%、2年生27%、1年生12%を目指す。 保健だよりについては、保健やインフルエンザなどの主要なものについてHPに掲載し、より細かい情報を発信する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストバッチの受賞者は、3年生が37%、2年生は42%、1年生は11%で目標は2年生と3年生は達成することができた。また、保健だよりも定期的に発行したことが、生徒の健康や体力の向上につながった。さらに、体力の向上に関するアンケートに対して、生徒は94.3%が肯定的な意見を回答し、保護者からは95.2%が肯定的な回答をもらっている。ことから、体力の向上については良い状況がつくれていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力の向上に関するアンケートについて、今年度の肯定的な生徒の回答は94.3%に対し、前年度は91.5%であった。来年度もこの数値の維持を目指して授業や部活動での取り組みを進めたい。 また、近年、部活動時間が減少しているため、昼休みや球技大会を利用し、生徒の活動時間を増やしていきたい。 スポーツテストのランキングの作成や目標設定などを通して、スポーツテストへのモチベーションを上げて体力の向上を図りたい。また、低体力の生徒に対しては授業の中で体力が向上するような活動を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 最近では外で遊ぶ子どもが少なくなっていることや、数年にわたる新型コロナウイルス感染症防止のため活動に制限があったこともあり、子どもたちの体力向上については保健教育が欠かせないと感じている。 部活動の在り方について、所属や指導について不安があるが、適切な対応をしていただきたい。教師、生徒双方に有意義な活動になるようしていきたい。
開かれ信頼される学校	積極的に学校情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール週間や、授業参観を実施し保護者や地域の意見を学校運営に活かす。 学校だよりを発行し地域にも配布する。 学校ホームページの更新やGoogle Classroomの配信を積極的に行う。 保健だよりなどを通して、健康管理の啓発を行う。 アンケート結果や保護者の意見を考慮し改善する。 Google Classroomのメール登録家庭数増加をめざすため、案内プリントを作成し配付する。 保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が80%以上とする。 Google Classroomのメール登録家庭数の割合を全家庭の50%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートにおいて、「学校の情報を知りたい」と回答した割合は87%と前年より増加した。 保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合は89.6%と前年より、目標を達成した。 保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合は86.5%と前年より、目標を達成した。 Google Classroomのメール登録家庭数は137名と前年より、全校生613名の22.3%であり、依然として低い割合となっている。 Google Classroomとの差別化が図れていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HPの利活用が停滞しており、情報発信の頻度が落ちてきているので、年間行事予定や月間行事予定、荒中だより等を随時更新できる体制を整えるとともに、Google Classroomを活用して積極的に情報発信に努める。 学校から定期的な連絡や即時性の必要なお知らせはGoogle Classroom、番組の対応や行事開始時刻の変更などはグループメールにも配信するなど、目的を明確化し保護者に理解してもらえるよう案内を配付する。特にグループメールについては、緊急時に使用する旨を伝え、メール登録してもらうように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> HPの利活用が停滞しており、情報発信の頻度が落ちてきているので、年間行事予定や月間行事予定、荒中だより等を随時更新できる体制を整えるとともに、Google Classroomを活用して積極的に情報発信に努める。 学校から定期的な連絡や即時性の必要なお知らせはGoogle Classroom、番組の対応や行事開始時刻の変更などはグループメールにも配信するなど、目的を明確化し保護者に理解してもらえるよう案内を配付する。特にグループメールについては、緊急時に使用する旨を伝え、メール登録してもらうように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信については、新入生や転校生の保護者や生徒、地域の方々への発信が不十分である。個人情報保護の観点から、どのような方法や対応が必要なのか新年度に向けて早急に準備する必要がある。 Google Classroomの配信では、情報発信が充実している。保護者の登録割合を100%にするなど自己責任を徹底させたい。 学校運営協議会のメンバーと先生方の視点をつくり、ともに荒牧中学校をより良くしていくための取り組みを考え、定並み揃えながら、「見える化」をこころがけながら進めていければいいのではないかと。
		<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール週間や、授業参観を実施し保護者や地域の意見を学校運営に活かす。 学校だよりを発行し地域にも配布する。 学校ホームページの更新やGoogle Classroomの配信を積極的に行う。 保健だよりなどを通して、健康管理の啓発を行う。 アンケート結果や保護者の意見を考慮し改善する。 Google Classroomのメール登録家庭数増加をめざすため、案内プリントを作成し配付する。 保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が80%以上とする。 Google Classroomのメール登録家庭数の割合を全家庭の50%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修や若手研修として道徳の研修を昨年度よりは多く行うことができた。 担任よりローテーションで道徳を行い、研究を深めることができた。 大規模な研修から、全校で同じ教材を扱う道徳を行い、多数の来校者に見学してもらったことができた。 道徳の授業を保護者に見てもらった機会がなかった。 特別な機会を除き、学年会などで指導者の検討をするとはできなかった。 全校の活動として、道徳の授業以外の道徳的教育を、目標に掲げながら行うことはできていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HPの利活用が停滞しており、情報発信の頻度が落ちてきているので、年間行事予定や月間行事予定、荒中だより等を随時更新できる体制を整えるとともに、Google Classroomを活用して積極的に情報発信に努める。 学校から定期的な連絡や即時性の必要なお知らせはGoogle Classroom、番組の対応や行事開始時刻の変更などはグループメールにも配信するなど、目的を明確化し保護者に理解してもらえるよう案内を配付する。特にグループメールについては、緊急時に使用する旨を伝え、メール登録してもらうように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信については、新入生や転校生の保護者や生徒、地域の方々への発信が不十分である。個人情報保護の観点から、どのような方法や対応が必要なのか新年度に向けて早急に準備する必要がある。 Google Classroomの配信では、情報発信が充実している。保護者の登録割合を100%にするなど自己責任を徹底させたい。 学校運営協議会のメンバーと先生方の視点をつくり、ともに荒牧中学校をより良くしていくための取り組みを考え、定並み揃えながら、「見える化」をこころがけながら進めていければいいのではないかと。 	

学校関係者評価総括
 ・前年度に比べ評価が多いこと、生徒指導の評価が気になる。先生方は、大変よくやってくれているので、もっと自信を持ってほしい。子どもも評価では数学が必要な教科だとわかっているが、苦手意識から好きではない生徒が多い。特に「学力の向上」では、全国学力調査で、粘り強く取り組む生徒は全国、兵庫、伊丹と比較しても多いが、学力面では、基礎学力の定着の乏しさや、家庭学習習慣のついていない影響が、顕著にあらわれている。3年生の学力テストなど、全国の中でのレベル市内校との比較をみていくと、つけるべき力や定着に考えが足りていないとされている。子ども「学校へ行くのが楽しい」という質問に対して、令和4年度は、71.1%、今年度は、84.6%である。また、「授業はわかりやすく楽しい」という質問に対し、令和4年度は、84.8%、今年度は、87.9%と、のびがみられる。「わかる 楽しい やってみよう」の授業ができるように研究、工夫していただくことをお願いしたい。そして、学習に対する姿勢は、学校だけでは変えられないので、家庭教育力を向上するための呼びかけ等をPTA活動を通してアナウンスしていきたい。

次年度に向けた重点的な改善点
 次年度に向けた重点的な改善点
 令和4年度から学校教育目標を、社会の変化に「自ら考え、行動し」、しなやかに対応できる力を「未来を創造する力」と捉え、授業力向上と生徒指導指針についても、学校教育目標の実現を目指した目標とした。授業に居場所のある、わかる授業、参加できる授業こそが、最大の生徒指導とし、授業を通して、子どもたちの自己肯定感、自己有用感をもたせる仕組みを授業の中につなげる土台を研究担当者会を柱に試行錯誤してきた。「教え合い学習」のスタイルを軸に、今まで続けてきた、0=UやCRTを有効に活用できるような生徒の実態を把握して授業づくりを進められるよう工夫している。これまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善・工夫を目指す、「めあての明示」「振り返り活動」「教え合い学習」等を引き続き徹底し、子どもたちの知識の理解の質の向上を図り、これからの時代に求められる資質・能力を育てていく「授業づくり」の構築が必要である。また、生徒指導面の大きな課題である不登校問題では、関係機関との効果的な連携を行うために、教職員の共通理解のもと、定並み揃え実践を進めていく必要がある。子どもたちには、これからの時代を生き抜く資質・能力を身につけさせることが大切であり、荒牧中学校が目指す学校運営を管理職が中心となって、教職員全体へと周知徹底し、学校教育目標の具現化をめざして実践していく。

自己評価の基準 A：目標を上回った B：目標どりに達成できた C：目標をやや下回った D：目標を大きく下回った